



理事長 岡部 憲昭

皆さまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

ディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2019』が完成しました。今年も可愛いメチャくんファミリーが、遠賀信用金庫の業績や活動について分かり易くご紹介しますので、ぜひ高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、我が国経済は、世界経済の緩やかな回復を背景に、アベノミクスの推進により、企業の稼ぐ力が高まり、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調を続けております。しかしながら、深刻な人手不足が懸念されるほか、米中貿易摩擦の影響、北朝鮮や中東の地政学的リスクの高まりなど、先行きの不透明感はさらに増大しております。

当地域におきましても、景気の緩やかな回復は続いているものの、慢性的な人手不足や経営者の高齢化に伴う事業継承問題の深刻化など、中小企業を取り巻く環境は厳しいものがあります。

そのような中、遠賀信用金庫は、30年度を初年度とする新しい中期計画「新・おんしんの5年後の姿」を策定し、「お客さまの役に立ち、お客さまから選ばれる、地域のベスト金融機関」を目指して、様々な取組みを展開しております。

お客さまの課題解決のための提案力を強化するために、外部の機関や専門家との連携による経営支援体制の構築に取り組んでまいりました。創業支援につきましては、「おんが創業支援協議会」の活動を中心に取組んだ結果、順調な創業実績を上げております。また、若手経営者の育成を目的とした「おんしん未来創世塾」も6期目を迎え、修了生の会を組織化し、活動の更なる充実を図りました。さらに、遠賀信用金庫で公的年金をお受取りいただいているお客さまを会員とする「おんしん おむすび会」も、会員数を着実に増加させるとともに、ふれあい旅行や観劇などを通じて、会員同士のつながりをさらに深めることができました。

地域貢献活動として、コンサートや講演会を始め、婚活を支援する活動やジュニアスポーツ大会への協賛を行いました。また、学生の実践教育や地域活性化を目的として、九州共立大学および九州国際大学と包括的地域連携協定を締結しました。なお、東日本大震災で被災した子供たちにさかいみるさんの絵本を届ける「絵本でえがおプロジェクト」が、8年目にして全国信用金庫協会の信用金庫社会貢献賞(Face to Face賞)を受賞いたしました。

平成30年度の決算につきましては、異次元の金融緩和による貸出金利の低下、金融機関同士の競争の激化など、大変厳しい環境ではございましたが、当期利益は971百万円と高い水準を確保することができました。金融機関の健全性を示す自己資本比率は14.06%と、国が定める基準(4%)を大きく上回っております。会員の皆さまには、本年度も業界の最高水準である8%の配当をさせていただくことになりました。

遠賀信用金庫は、「スモール イズ ナイス」の矜持を胸に、地域の皆さまのご期待に応えるべく、役職員一丸となって懸命に努力して参ります。

今後とも、遠賀信用金庫に対し、格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、皆さまのご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶といたします。

令和元年7月